

えほん



寅さん鉛筆を売る

絵：AI 作者：さとうかずみつ

寅さんエンピツを売る

絵：AI

作者：さとうかずみつ

会津学知会書店



100 エーカの森に住むプーさんの友だちは、想像力や優しさを失わない。みんな不完全だけど、互いに助け合う。

寅さんの家族のように。（こぐまのプーさん）



寅さんの甥、満男は大学を出て会社の営業職に就くものの、仕事にやりがいを見いだせず、悩んでいます。
そして思い出すのは「寅さんの家族」です。



夕暮れの柴又の街並み、足取り重く、柴又へと歩く満男。

柴又の家には、さくら・おばちゃん・寅さんがいる。



ちゃぶ台を囲む温かい家族・満男が帰ってきて、
みんなが「おかえり」と迎える。

満男は仕事の愚痴を話す。満男の表情は暗い
さくらとおばちゃんは心配そう寅さんはニコシ
ながら聞いている。



寅さんは満男に鉛筆を渡し、

「満男、このえんぴつちょっと、売ってみな」

満男：「消しゴム」つきの鉛筆ですよ、便利ですよ」

寅さん：「字は書かないから、いらないよ」と
断る。



寅さんは鉛筆を持ち、おふくろが削ってくれた
おもいで話をする。

「むかしな…… おふくろがよく えんぴつを削っ
てくれたっけ。火鉢のそばでな、木のおいが
して…… あれは いいもんだったなあ。」



さくら：「わたしもね、小さいころ……短くなるまでずっと使ってたの。名前をほそい字で書いてね。」

突然、おばちゃんが財布を取り出し「その鉛筆いくらだい」「はいはい！ そのえんぴつ、いくらだい？



翌朝、満男は笑顔で会社
に向かう

「……よし。もう一度、
がんばってみよう。」

おわり

絵：AI

作者：さとうかずみつ

会津学知会書店

<http://aizugakutikai.yaekumo.com>



定価：700円（税込）会津学知会書店 <http://aizugakutikai.yaekumo.com>